新富町文化財調査報告書　第 56 集

町 内 遺 跡 26

平成21年度町内遺跡発掘調査概要報告書
（陳ヶ迫第２遺跡）

陳ヶ迫第２遺跡SA２埋甕

２ ０ １ ０

宮崎県児湯郡・新富町教育委員会

序

新富町の文化財保護については日頃から深い御理解をいただき厚く御礼申し上げます。

本年度は陳ヶ迫第２遺跡の調査を実施しました。この地域ではこれまで発掘調査が行われていませんでしたが、今回の調査で弥生時代から古墳時代にかけて大規模な集落が形成されていたことが判明しました。周辺には国指定史跡新田原古墳群の一群でもある、塚原古墳群や石船古墳群が存在し関連性が指摘されます

本町はこれら文化財の保護を推進し、学術研究はもとより広く生涯学習の素材として活用していく考えです。

最後になりましたが、調査に際してお世話になった関係各機関の方々に深く感謝を申し上げます。

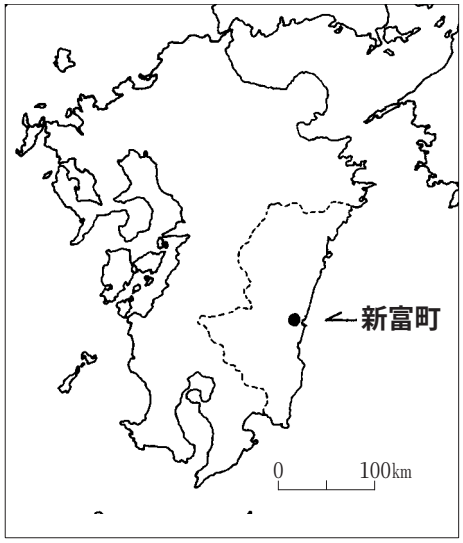
平成22年３月　　新富町教育長　　米　良　郁　子

例　言

１.本書は平成21年度に宮崎県児湯郡新富町教育委員会が実施した緊急発掘調査の概要報告書である。
２.発掘調査は、国庫補助事業「町内遺跡発掘調査等」を適用して行った。
３.各遺跡の調査期間は本文中の表１～２に明記した。
４.本書で使用した位置図は国土地理院発行の２万５千分の１図を基に作成し、調査範囲図はそれぞれ平板実測にて作成した 100分の１測量図をもとに作図した。
５.本書で使用する方位は座標北（座標第Ⅱ系）であり、レベルは海抜絶対高である。
６.遺構実測は、樋渡、本部、玉谷がおこなった。
７.遺構・遺物の写真は樋渡が撮影した。
８.整理作業はで行い、遺物実測及びトレースは樋渡が行った。
９.本書の執筆・編集は樋渡がおこなった。
10.出土遺物その他の記録はすべて新富町教育委員会生涯学習課に保管してある。

本文目次

Ⅰ．はじめに ……１～４ページ
Ⅱ．陳ヶ迫第２遺跡（１次）調査 ……５～10ページ
Ⅲ．まとめ ……11ページ



新富町位置図

Ⅰ．はじめに

１．新富町の位置と概要

新富町は宮崎県中央部の日向灘沿岸に位置し、県庁所在地である宮崎市から約20㎞北にある。

北西部から南東部にかけては一ツ瀬川が蛇行しつつ東進し、その流域左岸部の沖積平野と標高70～90ｍの台地面にかけて町域を有する。町面積は南北約７㎞、東西約９㎞の約61㎞^{2}で、隣接する市町村には西に西都市、北に高鍋町、南に宮崎市がある。

主幹産業は酪農や園芸を中心とした農業で、台地の中心部には航空自衛隊新田原基地があるため「やさいと基地の町」のイメージが強い。人口は約18,500人で、近年の道路交通網の整備にともない本町での宅地開発が活発になっている。

２．新富町の文化財保護

町では昭和43年に文化財保護審議委員会を設置し、町内の文化財保護を推進している。指定文化財は国指定２、県指定２、町指定６があり、内訳は史跡２、天然記念物３、無形民俗３、有形文化財２である。

天然記念物には湯之宮座論梅・春日のイチョウ・アカウミガメの３件が指定されている。それぞれ下草管理や徒長枝剪定などを行っている。アカウミガメは列島的な海岸面積の減少に関係してか毎年上陸頭数が少なくなっており、県下一斉の保護対策が求められている。無形民俗文化財には湯之宮棒踊り、元禄坊主踊り、新田神楽がある。各団体の自助努力により活発な活動が行われており、後継者を含めた総合的な支援が求められる。有形文化財には三納代神社の釈迦如来座像と厳島神社の薬師如来立像があり、ほかに保存状態の良くないものや製作年代の古いものが多い。

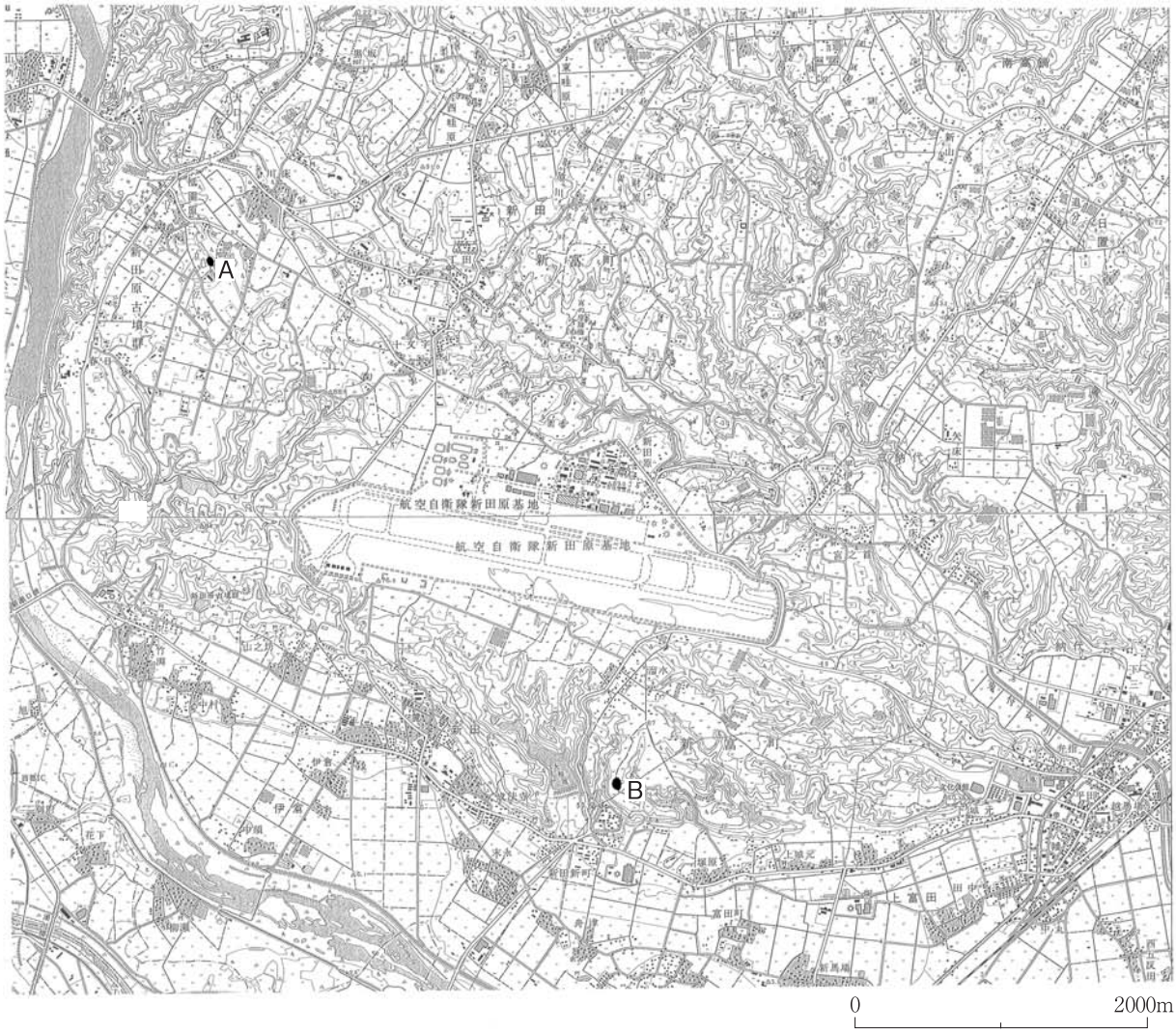
埋蔵文化財は開発行為によって消滅する頻度が高いため、年間を通じて調整・調査を行っている。史跡では国指定新田原古墳群の史跡整備を進行中で、平成９年度から発掘調査を行っている。

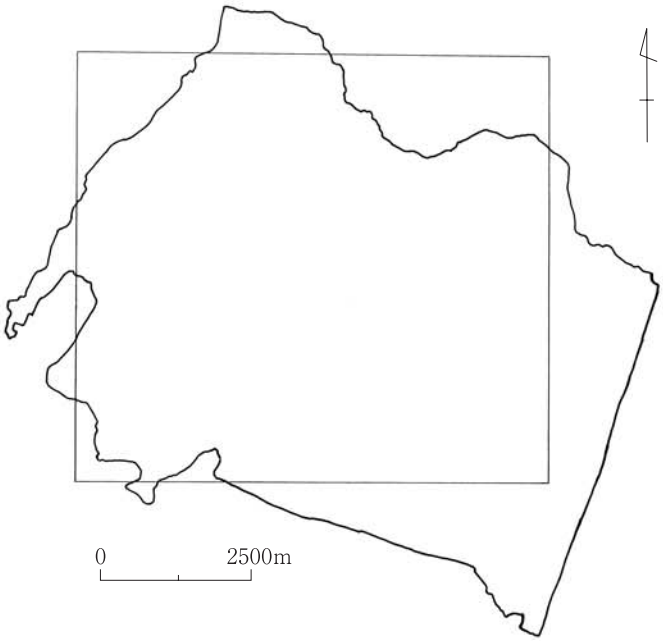
また町ですすめる総合文化公園整備事業で既存の文化会館のほかに図書館・歴史資料館を建設する予定があり、この歴史資料館（仮称）を中心に古墳群やその他文化財にガイダンスや案内板を設置し、見学や学習に寄与する予定である。

３．埋蔵文化財の調査

昭和50年代に始まった畑地帯のほ場整備にともない埋蔵文化財発掘調査がかなりの面積にわたって行われてきた。これら大規模調査の成果によって、1982年に行った遺跡詳細分布調査における「周知の遺跡」はその数が飛躍的に多くなった。

また、近年の町内における開発行為によって、周知の埋蔵文化財包蔵地外からの遺跡の発見が相次いだ。このため平成16年度から18年度にかけて「第２次遺跡詳細分布調査」を行い、18年度中にその成果をまとめた「新富町の埋蔵文化財（改訂版)」を発行した。その結果、新富町内の遺跡数は190ヵ所に及ぶことが判明した。





A　百足塚古墳周辺
B　陳ヶ迫第２遺跡

第１図　平成21年度に調査した遺跡

Ⅰ【調査体制】

総　　括　米良　郁子（新富町教育委員会　教育長）
　　後藤　博己（同　　生涯学習課　課長）
　　金丸　雅弘（同　　生涯学習課　課長補佐 兼 社会体育係長）
調査・調整　樋渡将太郎（同　　生涯学習課　主任主事：文化財担当）
調 整 補 助　有馬　義人（同　　生涯学習課　係長：文化財担当）
作　業　員　杉尾美千子、甲斐直美、坂本貞夫、溝口敦子、清美貴子、沼口未菓、本部裕美
　　高家武男、橋口哲男、黒木啓子、上山途枝子、平尾ミズエ、本部定臣、柳田　弘
参 加 学 生　玉谷鮎美

表１　平成21年度発掘調査一覧

	遺跡名	所在地	調査期間	申請者	面積	内　容	遺 構 ・ 時 期
1	新田原58号	新田字東俣	9/16～3/31	新富町長	40㎡	史跡確認	後期の前方後円墳
2	陳ヶ迫第２	新田字陳ヶ迫	1/21～3/19	新富町長	3,625㎡	農地改良	古墳時代の集落

表２　平成21年度試掘・立会一覧

	遺跡名・地区名	所在地	調査期間	申請者	面積	内　容	備　考
1	溜水第２	新田字溜水	9/28	NTTドコモ九州	20㎡	携帯電話中継基地	

４．文化財啓発活動

生涯学習や学社融合の一環として、町内外から文化財についての講演や見学会、勉強会等の要望が寄せられることが多い。町教委ではこれらの要望に応えるため、文化財の普及啓発活動の一環として下記の事業を行った。

表２　新富町の文化財啓発活動

月日	内　　容	講師・担当	対　象	人数
5/11	上新田小座論梅梅ちぎり	有馬	上新田小	30
5/16	アカウミガメ学習会	樋渡	一般	20
5/17	富田浜清掃大作戦	樋渡	一般	400
5/21	富田小古墳見学	樋渡	富田小6年生	100
7/1	富田小文化財愛護少年団入団式	樋渡	団員	7
8/11	富田小文化財愛護少年団活動①「博物館・史跡見学」	樋渡	団員	50
8/23	富田小文化財愛護少年団活動②「文化財愛護少年団交流会」	樋渡	団員	200
10/24	はにわ復活プロジェクト　はにわづくり	生涯学習課課員	上新田っ子	20
11/11	新田原古墳群古墳祭	生涯学習課課員	一般	100
11/28	富田小文化財愛護少年団活動③「飫肥城見学」	樋渡	団員	7
3/6	富田小文化財愛護少年団活動④「宮崎科学技術館見学」	樋渡	団員	7

表５　文化資料貸出状況

期　間	遺跡・資料名	貸出機関名
8/25～12/17	川床遺跡出土鉄刀・刀子・下屋敷古墳出土土器・鉄剣・勾玉	宮崎県立西都原考古博物館
９月～12月	栗別府遺跡出土経筒・蔵骨器	きつき城下町資料館
12/５～３/31	百足塚古墳出土形象埴輪９点	鹿児島県上野原縄文の森

Ⅱ．陳ヶ迫第２遺跡（１次）の調査

１　位置と調査の経緯

新富町の南部では九州山地を水源とする一ツ瀬川によって形成された沖積地が広がる。北部は高度の異なる複数の段丘面からなる洪積台地が広がり、それぞれ北から茶臼原面（標高約100～120m)、三財原面(標高約80～90m)、新田原面（標高約70m）で構成されている。

陳ヶ迫第２遺跡はこの新田原面から南に派生した丘陵上に位置し、眼下には一ツ瀬川と沖積地を見下ろすことができる。この付近では北約600mに位置する溜水遺跡や溜水第２遺跡で小規模な調査が行われている以外では、まとまった調査は行われていない。しかし、平成16年度から平成18年度にかけて行われた第２次遺跡詳細分布調査で、広範囲から遺物が表採されており、弥生時代や古墳時代の集落の可能性が指摘されていた。また、中世山城も多数確認されており、一ツ瀬川を天然の防御とし、南から攻めてくる敵を迎え撃つ重要な地域であったようだ。

平成20年10月頃、地元の耕作者から畑地の土壌改良を行いたいとの連絡が入った。現地を確認したところ、土壌改良予定地の畑から多数の土器片を確認し、遺跡の範囲内であることが確実であった。このため、地権者や耕作者と協議を行い、農閑期である冬以降に本調査を行うことになった。

調査は平成22年１月21日から行い、３月12日に終了した。

２　調査の方法と概要

今回の土壌改良の予定地は面積3,500㎡の畑２枚分である。調査に先だってバックホーによる表土剥ぎを行ったが、周辺で土置き場を確保することができなかったため、２回に分けて表土剥ぎを行うこととし、まずは北側から表土剥ぎを行い、南側を土置き場とした。その結果、現地表面から約30～50㎝程まで掘削されていたが、ほぼ全面でアカホヤ火山灰を確認することができた。このためアカホヤ火山灰層を基準に遺構精査を行い、確認された遺構にはマーキングを行った。その後、測量業者に基準点と水準点の設置を委託し、基準点設置後にグリッドを設定した。遺構は１/20で実測し図面を作成した。写真は中判カメラで撮影し、35㎜とデジタルカメラで補助した。調査区の全景はスカイサーベイに委託した。

３　調査の結果

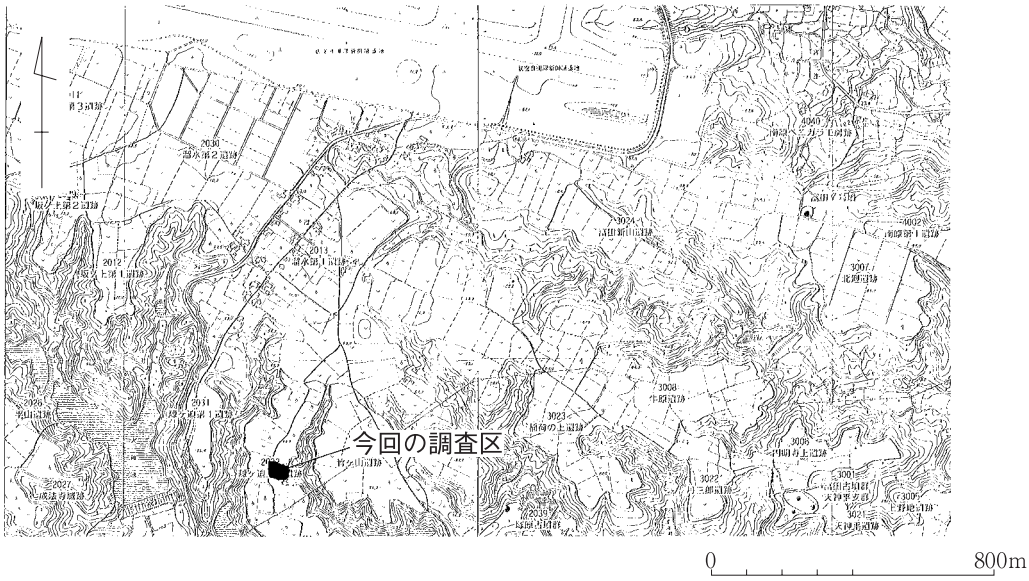
今回の調査面積は約2,000㎡である。検出された遺構は竪穴住居12、溝状遺構４である。竪穴住居の内訳は弥生時代が1、古墳時代が12で、調査区の両端に集中しており、中央部は閑散としている。全体的に遺構上面の掘削が激しく、貼り床や埋甕のみが検出されたものもあった。

溝状遺構も調査区の両端から検出されている。

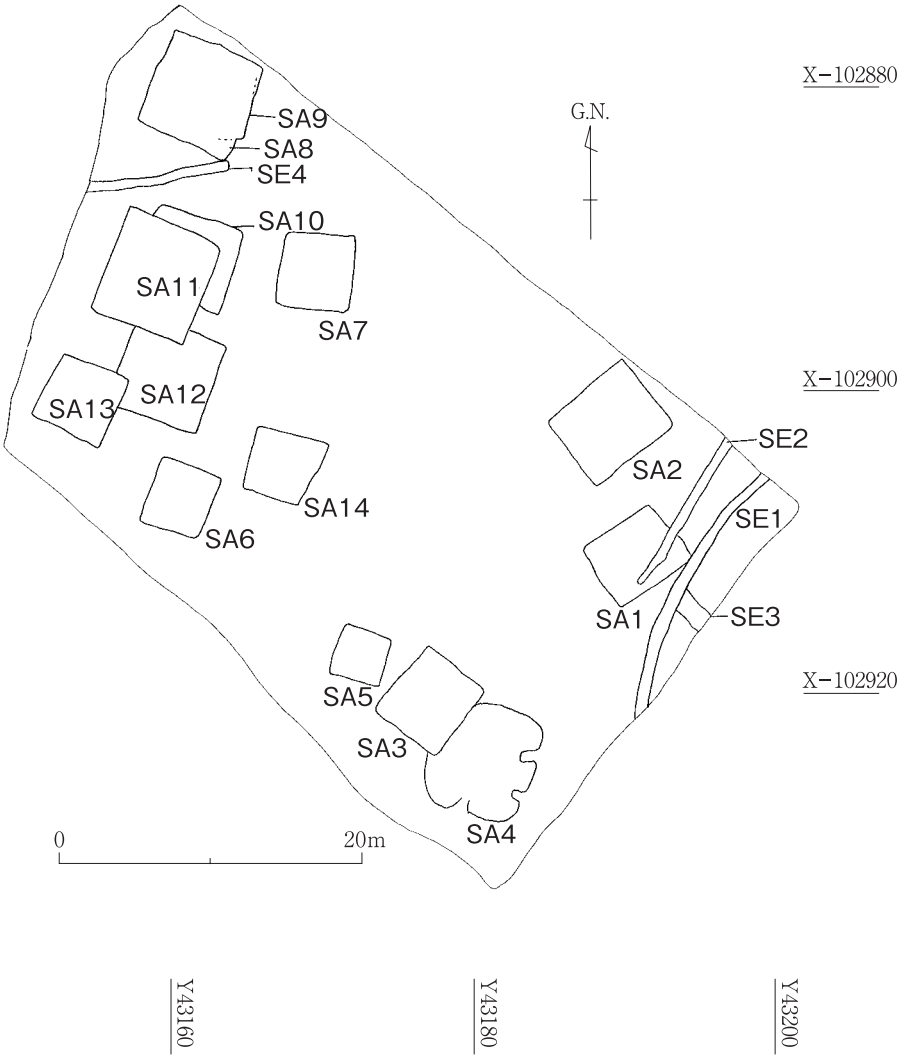
（１）竪穴住居

①SA１

調査区の北東側で検出された。一部がSE１とSE２によって切られている。5.8m×4.6mの規模で、方形を呈する。貼り床の直上まで掘削されており、検出面からの深さは最大で、６㎝に過ぎない。主柱穴は４本で、中央部よりやや南側で埋甕が確認され、周辺は熱のため赤化している。



第２図　陳ヶ迫第２遺跡位置図



第３図　陳ヶ迫第２遺跡1次調査区遺構配置図

遺物は土師器が中で南側に集中して検出されている。

②SA２

SA１の西側で検出した。6.4m×5.6mの規模で、方形を呈する。既に貼り床まで掘削されていたため、残りの貼り床を剥がして、堀方面での検出、実測を行った。主柱穴は４本である。中央部よりやや南側で埋甕が検出された。遺物は貼り床からわずかに土師器や石鏃が出土しているに過ぎない。

③SA３

調査区の南東側でSA４を切った状態で検出された。平面は正方形を呈する。上面が大きく掘削されており、検出面からの深さは最大で20㎝に過ぎない。貼り床も施されておらず、住居内に複数の柱穴が確認されているが、どれが主柱穴か確認できなかった。中央部よりやや南側で埋甕が検出されている。これ以外では土師器がわずかに出土しているに過ぎない。

④SA４

調査区の南東側でSA３に切られた状態で検出された。上面が大きく掘削され、とくに西側のプランは判然としない。東側では３ヵ所で間仕切りの痕跡があり、住居内には、円状に柱穴が配置され、その中心からやや南側に土抗がある。今回検出された唯一の弥生時代の住居址である。遺物は弥生土器や石器がわずかに出土している。

⑤SA５

SA３の東側で検出された。3.3m×3.3mの規模で、正方形を呈する。今回のなかでは最も規模が小さい。上面が大きく掘削されており、検出面からの深さは最大で10㎝である。中央部には硬化面が確認されたが、貼り床は施していない。遺物は土師器が少量出土している。

⑥SA６

調査区の南西側で検出された。4.3m×4.1mの規模で、方形を呈する。検出面からの深さは10㎝に過ぎない。貼り床は施されておらず、硬化面や主柱穴も確認されていない。

⑦SA７

SA６の北側で埋甕が検出されたことにより住居と確認された。規模やプランは判然としない。埋甕の周辺は熱のため赤化している。

⑧SA８

調査区の北西側で検出された。SA９を切っている。主柱穴は４本で貼り床が全面に施されている。

⑨SA９

SA８によってほとんどを失っており規模、プランとも判然としない。

⑩SA10

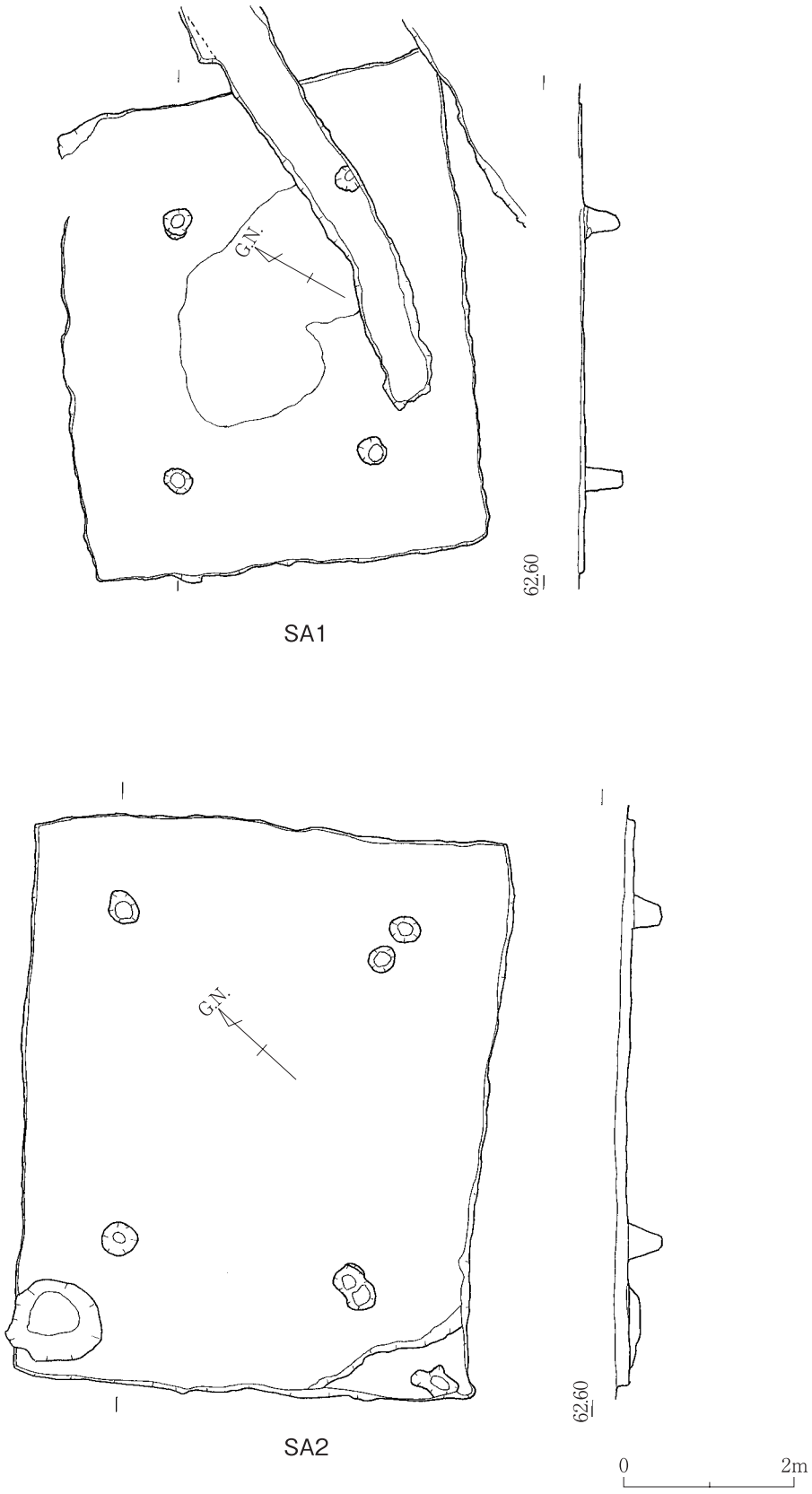
SA11に切られ、全体の７割を失っている。貼り床や主柱穴は判然としない。床面直上から土師器が比較的まとまって出土している。

⑪SA11

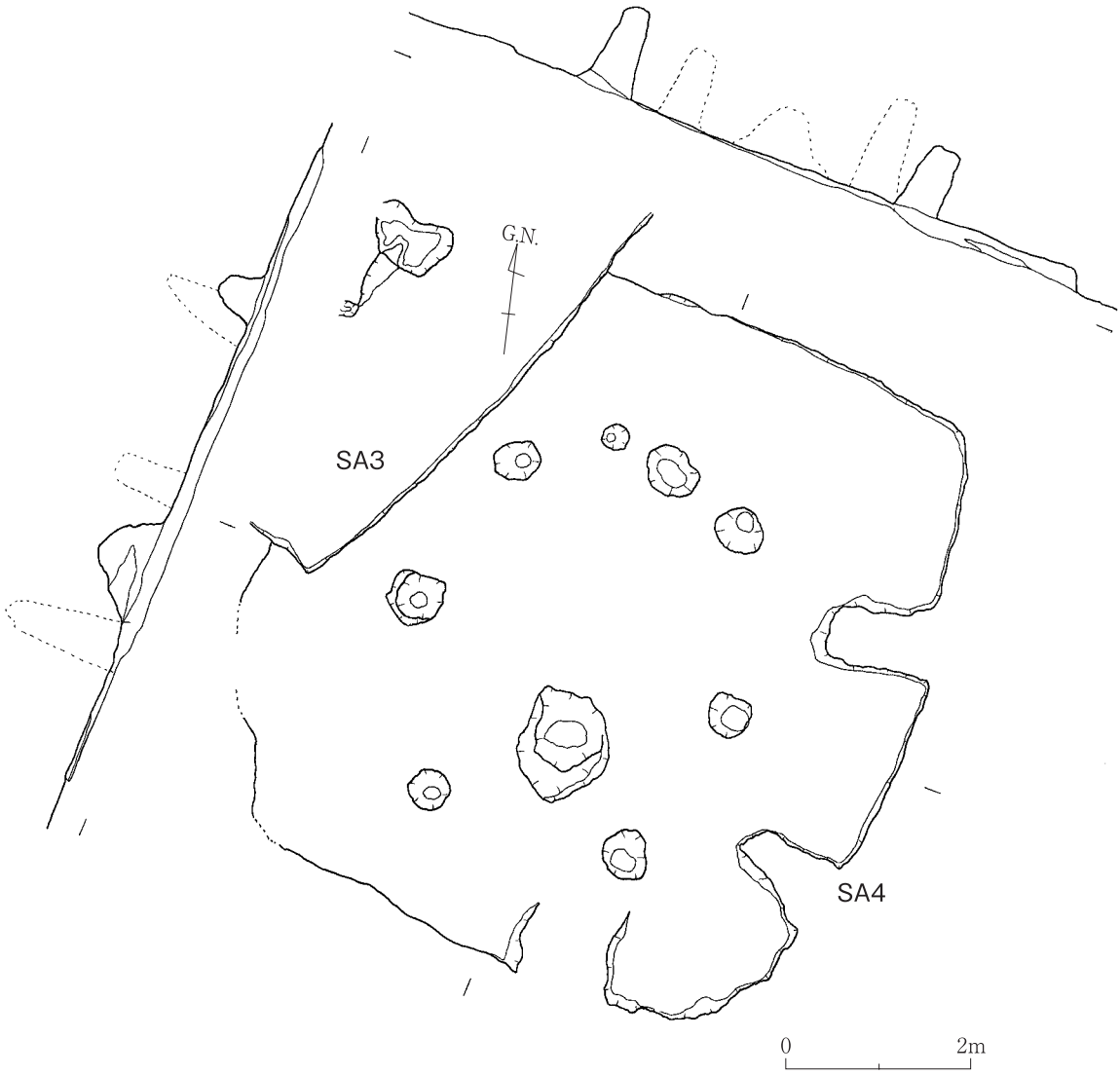
SA10やSA12を切った状態で検出された。主柱穴は４本で、貼り床が施され、中央部を中心に硬化面がある。中央より南側で埋甕が確認され、周辺は熱のため赤化している。

⑫SA12

SA11とSA13に切られた状態で検出された。主柱穴は４本で、ほぼ全面に貼り床が施されてい



第４図　SA１・SA２



第５図　SA３とSA４

る。中央部には硬化面があり、かなりしまっている。中央よりやや南側で埋甕が検出され、周辺は熱のため赤化している。出土遺物は土師器がわずかに出土しているに過ぎない。

⑬SA13

SA12を切った状態で検出された。主柱穴は４本で、硬化面はないが、住居掘削時の凹凸を被覆調整して床面としている。出土遺物は土師器が中心で、須恵器も出土している。

⑭SA14

SA13の東側で検出された。遺構のほとんどを失っており、硬化面の存在により住居と確認された。

（２）溝状遺構

調査区の東側で３条（SE１～３)、西側で１条（SE４）を検出した。このうちSE４はSA８とSA10の間を東西方向に貫通している。周辺住居とほぼ同時期に築造されていると考えられる。

４．小結

今回の調査では竪穴住居14軒と溝状遺構４を確認した。住居は弥生時代の間仕切り住居を除くと、すべて古墳時代中～後期の住居址と考えられる。とくに西側では、複数の住居址が切り合った状態で検出されたため、頻繁に建て替えが行われていたようだ。調査区周辺では広範囲で土師器や須恵器片が採集できることから、かなりの規模の集落が存在していた可能性が高い。

Ⅲ　まとめ

今年度の調査は本調査１、工事立会１であった。陳ヶ迫第２遺跡の調査では、古墳時代の集落を確認することができた。周辺地形を考慮すると、百軒以上の集落であった可能性が高く、同じ古墳時代の集落である上薗遺跡との比較や、周辺に展開する塚原古墳群、石舟古墳群との関係を検討するうえで興味深い。

今回の調査面積は土壌改良予定地の半分である。残りの面積については次年度に行い、終了後に本報告書を作成する予定である。

1．陳ヶ迫第２遺跡南側から

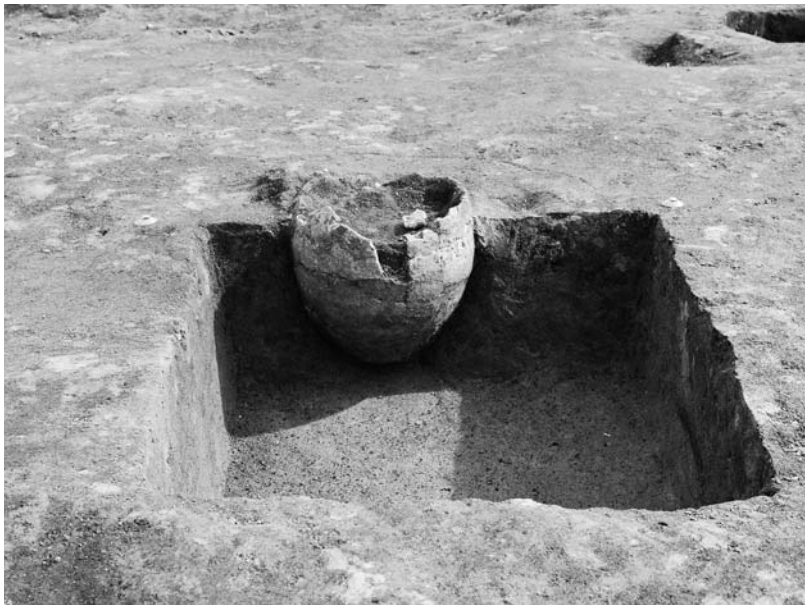
1．陳ヶ迫第２遺跡真上から

1．重機による表土剥ぎ

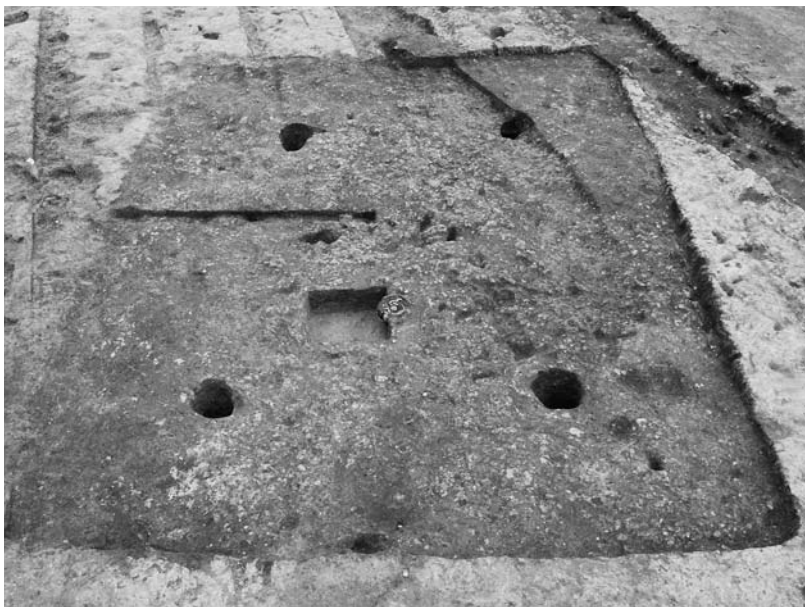
2．SE１検出状況

3．SA１検出状況

1．SA１遺物出土状況



2．SA１埋甕



3．SA１完掘状況

1．SA２埋甕

2．SA２完掘状況

3．SA３とSA４

1．SA３完掘状況

2．SA４完掘状況

3．SA５完掘状況

報　告　書　抄　録

ふりがな	ちょうないいせき
書名	町内遺跡26
副書名	平成21年度 町内遺跡発掘調査概要報告書
巻次	26
シリーズ名	新富町文化財調査報告書
シリーズ番号	第56集
編著者名	樋渡将太郎
編集機関	新富町教育委員会
所在地	宮崎県児湯郡新富町大字上富田7491番地
発行年月日	2010年３月31日

ふりがな 所収遺跡・地区名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	調査期間	調査面積	調査原因
陳ヶ迫第２遺跡（ちんがさこだいにいせき）	大字新田字陳ヶ迫1356-2（おおあざにゅうたあざちんがさこ）	47	2031	100121～100319	3,625㎡	農地改良

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
陳ヶ迫第２遺跡	散布地	古墳・弥生	竪穴住居址	須恵器・土師器	古墳時代 後期の集落

新富町文化財調査報告書　第56集

町　内　遺　跡　26

発行年月日　２０１０年３月
発　　行　宮崎県新富町教育委員会
印　　刷　㈱印刷センタークロダ